特集

トラック運送業界とSDGs

エスディージーズ

第7回

持続可能なトラック運送業界の実現を目指して
鹿央運輸㈲のSDGs推進への取り組み

本特集では、SDGs（持続可能な開発目標）とトラック運送業界の関わり方について紹介します。……㈲（竹下由美代表取締役社長）の取り組みを紹介します。

「SDGsを通じて信頼感を高めたい」
まずは身近な内容から取り組みを開始

竹下　由美
代表取締役社長

鹿央運輸は今年1月、熊本県によって「熊本県SDGs登録事業者（第2期）」に認定された。

同社がSDGsへの取り組みを始めた当初、同社の従業員の多くはSDGsを知らなかった。そこで、同社では毎月1回開催している「安全ミーティング」の中で、SDGsの精神などをドライバーに説明したり、SDGsの17の目標が記されたパンフレットを配布するなど、SDGsへの理解を促した。そして、まずはできることから取り組んでいくこととし、食品ロスの観点から「社員に昼食のお弁当は食べられる量のものを購入し、食べ残しを防ぐ」、環境の再生利用の観点から「ペットボトルの飲み物は、必ず空にしてから捨てる」など、日常の中ですぐにでもできる取り組みからスタートした。

「SDGsは、簡単に取り組めることも少なくありません。SDGsの活動を社内に定着させるためには、まずは社長自身が、従業員に対してSDGsに取り組む姿勢をしっかりと示すことが大事だと思います」（同）

従業員に対しては「安全ミーティング」の中でSDGsに関する説明を行い、理解を促した

「輸送品質を守るために運賃の値上げを」
対話を積み重ねて理想的な輸送を実現

それでは、同社における取り組みの実施を求めている。

①「組織・公正な取引」

同テーマの中の基本項目の1つとして、「ステークホルダーとの対話」が盛り込まれている。

同社では「標準的な運賃」の告示を受けて、荷主との運賃交渉を進めている。昨年9月、竹下社長はある荷主に対し運賃の値上げを切り出したところ、荷主は同社との契約打ち切りをほのめかした。そこで竹下社長は荷主に対して「燃料高騰もあり、他の運送事業者に貴社が乗り換えた場合には輸送品質を今のまま安心して維持していくことができなくなったり、ドライバーの質の低下を招くことにもなりかねない。そうなれば御社の質が問われかねないような事態が起きないとも限らない。現在の輸送の安定には、どうしても運賃の値上げが必要なのです」と粘り強く交渉。数度にわたる話し合いの末、運賃の10%増額を勝ち取ることができたのである。

「たとえ運賃が安くても、安全性に問題を抱えていたり、荷物事故を頻発するような運送会社に仕事を任せていては、荷主の評価は地に落ちてしまいかねません。当社としては、『仕事を任せていただいているお客様の顔に、決して泥を塗ってはならない』と、輸送サービス向上への取り組みを継続的に行うとともに、輸送コスト削減に向けての業務改善提案も続けてきました。『輸送品質を決して劣化させてはならない』という思いは、当社としても荷主としても違いはないと思います。パートナーとして同じ目標に向かって対話を積み重ね、運送事業者・荷主の双方にとってより理想的な輸送を実現できればと考えています」（同）

②「労働・人権」

「働きやすい職場づくり」の一貫として同社では土曜日を「整備の日」と定め、洗車や点検整備を行い、昼食は全員で食事に出かけ、従業員同士のコミュニケーションを深めている。なお、食事代は全額会社負担としている。

また、同社では福利厚生の一環として、顧問弁護士と契約を結び、同社の従業員が会社を通さずに、家庭問題など業務に関すること以外の相談も無料でできるようにしている。悩みを抱えたまま乗務を続けていると、重大な事故を引き起こしかねない。弁護士による無料相談は、事故防止の観点からも有効な施策となっている。

さらに、多様な人材が活躍できる環境整備の観点から、同社では自衛隊退職者の採用にも取り組み、現在2人が在籍している。

環境・安全への取り組みにも注力
地元の誇りとなった「ラッピングトラック」

③「環境」

同社では温暖化対策として、トラックの燃料使用量や本社事務所内の電気使用量などを把握した上で、簡易計算シートを基にCO_2排出量を算出。その結果を基に、ドライバーに対して待機中のアイドリングストップを推奨するなど、CO_2排出量の削減に取り組んでいる。

環境への取り組みとして出色なのが、竹下社長が20年以上にわたって廃油石鹸を作り、トラックの洗車に活用していることである。竹下社長が自ら小学校などに出向き、学校給食で発生する廃油を譲り受け、廃油石鹸を作り続けている。

さらに、地域の環境保護の観点から、同社では熊本県トラック協会が実施している「環境クリーンキャンペーン」に参加しているほか、従業員による日常的な地域の清掃活動も行っている。

熊本県トラ協「環境クリーンキャンペーン」にも積極的に参加し、地域の環境美化に取り組む

④「製品・サービス」

同テーマの中の基本項目の中で最も大事になってくるのは、「製品・サービスの安全性と品質」である。

先述の通り、同社では毎月1回安全ミーティングを開催している。安全ミーティングでは、車両に設置されているドライブレコーダーで撮影されたヒヤリハット映像をドライバー全員で確認。ヒヤリハット映像を見てもらいながら事故防止に向けての指導を行うことで、ドライバーにとっては安全に関する知識の定着度向上が期待できる。

また、運行管理面では、ドライバーの年齢や健康状態などを考慮しながら配車を実施。ドライバーにとって無理のない運行にすることで、過労運転を防止し、無事故に繋げている。

⑤「持続可能な社会・地方創生」

同社では、地域貢献に関する取り組みも積極的に推進している。

まず、熊本県ト協で実施している学生向けの「物流出前授業」に積極的に参加。就職を控えた高校生への業界アピールとともに、業界の社会的地位向上にも繋げている。

また、同社では令和2年12月、風物詩として知られている「山鹿灯籠まつり」をモチーフにしたラッピングトラックを導入。熊本出身の画家である鶴田一郎氏がデザインした美人画や千人灯籠踊りが、鮮やかに車体に描かれている。

「ラッピングトラックは、新型コロナウイルス感染症第2波（2年7～8月）の影響により灯籠まつりが中止に追い込まれたことを受けて、『地元のために何かできないか』と考えて制作したものです。市民の皆様からの反応は上々でした。また、当社のドライバーも、地元の皆様の想いがいっぱい詰まったラッピングトラックを運転できることに、大きな誇りを感じているようです」（同）

今年6月に鹿本農業高等学校で行った「物流出前授業」では、竹下社長が学生たちに業界の魅力を説明した

運送事業者によるSDGsへの取り組みが
業界全体の社会的地位向上に繋がる

SDGsに関する様々な取り組みを通じて、従業員が同社で仕事をしていることに自信をもつようになってきたという。運賃交渉の末に獲得できた上乗せ額については従業員の給与に反映させたこと、また、同社の取り組みが荷主や地域住民から評価されるようになったことが、従業員の自信に繋がっているようだと、竹下社長は分析する。

「ドライバー不足に苦しんでいるトラック運送業界が今後も生き残っていくためには、運送業界のイメージを変えていく必要があると考えています。多くの企業がSDGsへの取り組みを始めている中で、トラック運送事業者がその流れに乗り遅れていたら、『トラック運送業界は時代遅れだ』との印象をもたれ、若者から就職先として選ばれない業界となるでしょうし、SDGsへの取り組みが荷主企業から選ばれる運送事業者になり得る重要な選択肢のひとつとなる可能性は今後大きくなっていくでしょう。SDGsへの取り組みは決して難しいものではありませんし、業界が今後も社会的インフラとしての役割を果たし続けていくために欠かすことのできない取り組みだと感じています。運賃交渉と同時並行でSDGsに取り組むことが、運送事業者の経営を持続可能なものとするとともに、運送業界の社会的地位を向上させる唯一の方策なのではないでしょうか」（同）

（取材協力）鹿央運輸㈲
竹下由美代表取締役社長

地元山鹿市の観光PRを目的に、「山鹿灯籠まつり」ラッピングトラックを導入した

企業プロフィール

社　　名	鹿央運輸㈲
本社所在地	熊本県山鹿市鹿央町千田2185
代 表 者	代表取締役社長　竹下　由美
設　　立	昭和63年10月13日
資 本 金	1,200万円
社 員 数	35人　（うちドライバー28人）
車 両 数	31台

ロジスティクスの New Standard

過去最大規模の展示会場に
最新物流機器・システム・情報が
一堂に集結!

国際物流総合展 第15回
Logis-Tech Tokyo 2022

会 期　2022年9月13日(火)～16日(金) 10:00～17:00
会 場　東京ビッグサイト(東京国際展示場) 東1～8ホール
主 催　一般社団法人 日本産業機械工業会(JSIM)　一般社団法人 日本産業車両協会(JIVA)
一般社団法人 日本パレット協会(JPA)　一般社団法人 日本運搬車両機器協会(JMHA)
一般社団法人 日本物流システム機器協会(JIMH)　公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会(JILS)
一般社団法人 日本能率協会(JMA)
入場登録料　¥3,000(税込)
招待状・来場事前登録証をご持参の方は無料

バーチャル物流展 "Logis-Tech" Online　オンラインでも本展に参加いただけます!
会 期　2022年8月1日(月)～9月30日(金)(予定)
会期前や会期後、出展各社の製品等の情報を確認でき、出展者とコンタクトが取れます! また、会期後、当日会場で開催されたセミナー(一部)も視聴できます!
詳細はこちらから

併催カンファレンス　「ロジスティクス イノベーションフォーラム」開催!
プログラム詳細・事前登録はこちらから

最新情報は公式ホームページにて!
国際物流総合展　https://www.logis-tech-tokyo.gr.jp/ltt/
来場事前登録で入場登録料が無料!
来場についての問い合せ先　国際物流総合展 事務局 来場者ヘルプデスク
(株)ケイ・スリー・クリエーション　受付時間:9:30～18:00(土日祝は除く)
Tel:03-6809-2707　E-mail:helpdesk@k3c.co.jp